

October 11, 2021

【前日の為替概況】ドル円、米9月失業率4.8%と米10年債利回り1.61%台で112.25円まで上昇

8日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は112.24円と前営業日NY終値(111.63円)と比べて61銭程度のドル高水準。米労働省が発表した9月米雇用統計で非農業部門雇用者数が19.4万人増と予想の50.0万人増を大幅に下回ったことが分かるとドル売りが先行し、111.51円まで下落した。

ただ、失業率が4.8%と予想の5.1%より強い内容だったこともあり、売り一巡後は買い戻しが優勢に。11月の量的緩和縮小(テーパリング)の開始が遅れるほど悪い内容ではないとの見方から、円売り・ドル買いがじわりと強まった。米長期金利の指標である米10年債利回りが一時1.6153%前後と6月4日以来の高水準を付けると、112.25円まで上昇した。FF金利先物は米連邦準備理事会(FRB)が22年11月または12月に政策金利を0.25%引き上げることを織り込んでおり、米雇用統計発表前と同じ水準。ユーロ円も続伸。終値は129.86円と前営業日NY終値(128.94円)と比べて92銭程度のユーロ高水準。ドル円の上昇につれた円売り・ユーロ買いが優勢となり、一時129.91円と日通し高値を付けた。

ユーロドルは4営業日ぶりに反発。終値は1.1569ドルと前営業日NY終値(1.1552ドル)と比べて0.0017ドル程度のユーロ高水準。米雇用者数が予想を下回ったことが分かるとドル売りで反応し、1.1586ドルと日通し高値を付けたが、そのあとは1.15ドル台後半でもみ合いに終始した。市場では「軟調な米雇用統計だったが、年内のテーパリング開始に変わりはない」との声が聞かれ、米長期金利の上昇とともにユーロ売り・ドル買いが出た。半面、ユーロ円の上昇につれた買いが相場を下支えた。

カナダドルは全面高。9月カナダ雇用統計で新規雇用者数が15.71万人増と予想6.50万人増を上回ったことや、WTI原油先物が一時1バレル=80ドル台まで上昇したことなどで、カナダドルに買いが集まった。対米ドルでは1.2452カナダドル、対円では90.06円と7月6日以来約3カ月ぶりの高値を更新した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、原油価格と米10年債利回り上昇で堅調推移か

本日の東京外国為替市場のドル円は、米10年債利回りとWTI原油先物価格が上昇基調にあることで、底堅い展開が予想される。

WTI原油先物価格は、4日のOPECプラスで増産が見送られたことで、8日には一時80ドル台まで上昇した。コロナ禍による景気後退から回復基調にある世界経済が原油価格高騰に襲われた場合、スタグフレーション(景気減速+インフレ高進)に陥る可能性が高まることで、警戒感が高まりつつある。先週は、グランホルム米エネルギー長官が「米国産原油の輸出禁止措置が価格抑制のための潜在的な手段、戦略石油備蓄(SPR)の利用も検討している」と述べており、今週も関連ヘッドラインに要注目となる。

米国9月の非農業部門雇用者数は前月比19.4万人の増加に留まったものの、失業率が4.8%に低下していたことで、11月の米連邦公開市場委員会(FOMC)ではテーパリング(資産購入の段階的縮小)開始が決定される可能性は払拭されていない。また、WTI原油先物価格が80ドル台まで上昇するなど、インフレ高進が一時的ではない可能性が高まっていることも、11月のFOMCでのテーパリング開始の可能性を高めている。

ドル円の上値を抑える要因としては、中国恒大集団のクロスデフォルトの可能性があることや、先週4日に、中国不動産業界大手の花樣年控股集团が社債2億570万ドルを償還できなかったこと、今週15日も、中国不動産業界大手の鑫苑置業もドル建て債の償還が危ぶまれていることなどが挙げられる。さらに、経営危機に陥っている中国恒大集団を含む中国不動産大手の多くが、巨額の簿外債務を抱えている可能性が指摘されていることにも要警戒。すなわち、中国恒大集団の6月時点の債務は、3本のレッドライン「三道紅線」規制の自己資本対負債比率=100%に従って約3050億ドルと報じられているが、簿外債務を含めた場合では少なくとも177%に上昇する、と米系金融機関が試算している。また、米国中長期債利回りの上昇やドル高を受けて、新興国のドル建て債務危機への警戒感も、ドル円の上値を抑える要因となる。

ドル円のテクニカル分析では、トレンド系の一目均衡表などでは三役好転の買いの時代に入っているものの、オシレーター系の相対力指数(RSI)(14日間)では、逆行現象(ダイバージェンス)が出現していることで要警戒となる。すなわち、9月29日の高値112.05円のRSIは70.90だったが、10月8日の高値112.25円のRSIは67.55で、価格の高値更新にも関わらず、RSIは高値を更新出来ていないことで、上昇エネルギーの枯渇が警告されている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>
特になし

<海外>

- 15:00 ◎ 9月ノルウェーCPI（予想：前月比1.0%／前年比3.9%）
- 16:00 ◎ ビルロワドガロー仏中銀総裁、講演
- 16:00 ◇ 8月トルコ経常収支（予想：1.0億ドルの赤字）
- 16:00 ◇ 8月トルコ失業率
- 17:00 ◎ センテノ・ポルトガル中銀総裁、エルダーソン欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 21:00 ◎ レーン ECB 専務理事兼主任エコノミスト、講演
- 23:00 ◎ ホルツマン・オーストリア中銀総裁、講演
- 12日 00:30 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 米国（コロンブスデー）、債券市場が休場
- 韓国（ハンゲルの日の振替休日）、カナダ（感謝祭）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

8日 05:17 バイデン米大統領
「米国経済は急速に成長している」

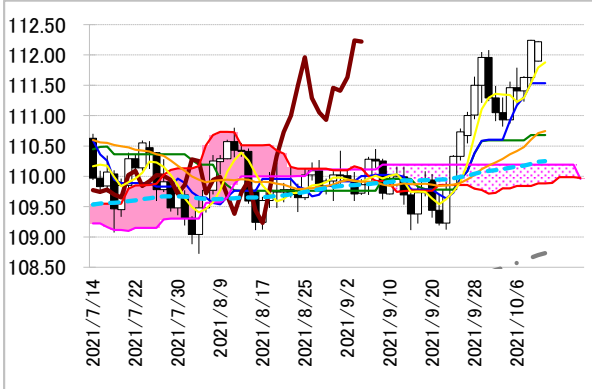
8日 18:11 習・中国国家主席
※岸田首相に対する表明
「中国と日本の両国が歴史・台湾関連問題に適切に対
処すべき」
「両国が経済面の協調を強化すべき」

8日 20:59 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁
「早すぎる金融引き締めは回復の妨げになる」

9日 01:14 OECD(経済協力開発機構)
「136カ国が法人税の国際協定に合意すると表明」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

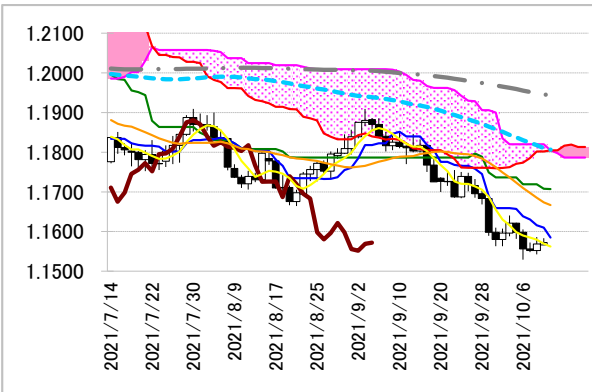


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。2手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。しかしながら、相対力指数(RSI:14日)の逆行現象には要警戒か。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	113.71(2018/12/13 高値)
レジスタンス 1	112.86(2018/12/18 高値)
前日終値	112.24
サポート 1	111.54(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	110.68(日足一目均衡表・基準線)

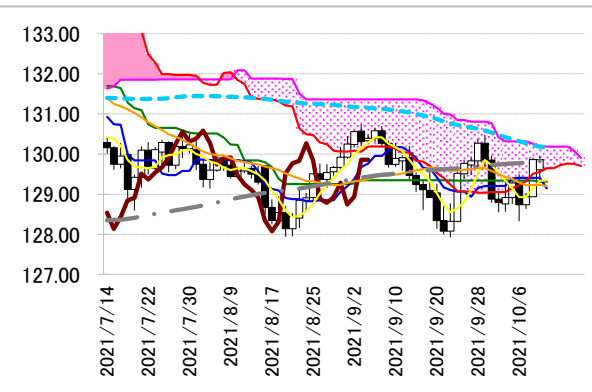


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。3手連続陰線で下落後、抱き線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1610(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1569
サポート 1	1.1507(2020/7/22 安値)

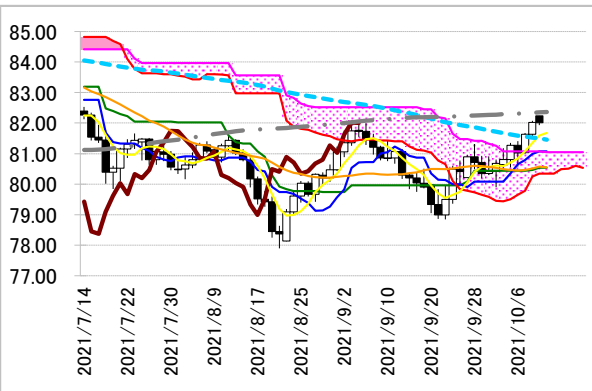


<ユーロ円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けているものの、一目・転換線は基準線を上回り、転換線を上回って引けていることから、買いシグナルが優勢な展開となっている。2手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	130.20(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	129.86
サポート 1	129.41(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。2手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	82.82(7/13 高値)
前日終値	82.02
サポート 1	81.07(日足一目均衡表・転換線)

